

『エメキ鳥』

中挟と江曾の境の山手の辺りを、「向かい山」といいます。

五月の中頃になると、この山から、人のうめき声に似た鳥の鳴き声が、聞かれます。

むかし、七尾に、「ひき山」つくりの名人がいました。ある年の「ひき山」まつりの前日、今までになく、できばえの良い「ひき山」をつくりました。

そこで、名人は、一生懸命につくりあげた「ひき山」を、ふるさとの中挟の人たちに、見てもらおうと思いました。そして、その夜、ひそかに町から在所へと、「ひき山」を引き出しました。しかし、一人の力では、「ひき山」は、どうにも動かず、とうとう、その名人は、満身の力を出しきって、息絶えてしまいました。でも、名人は、鳥となって、この辺りについて、悲しい声で鳴いたそうです。

そして、毎年、七尾の「山見」の頃になると、悲しい声でうめき鳴きました。そこで、この山の辺りを「むかい山」と呼びます。それからは、村人たち、みんなこぞって、七尾へ「山見」に出かける習わしとなったそうです。

(中挟町 伝承、 山下 郁雄)

